

2014年7月17日

独立行政法人日本スポーツ振興センター
理事長 河野一郎 様

「新国立競技場に関する建築関連団体への説明会」を受けての質問書

公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 三井所清典



一般社団法人 東京建築士会 会長

中村勉



一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長

大内達史



一般社団法人 東京都建築士事務所協会 会長

大内達史



公益社団法人 日本建築家協会 会長 芦原太郎



私たち建築関連5団体は、2014年7月7日に独立行政法人日本スポーツ振興センターから新国立競技場計画に関する説明を受けましたが、ここに改めて質問書を提出いたします。

質問項目

1. 新国立競技場の機能と需要予測

将来も8万人集客イベントの需要が続くと説明されましたが、最も重要な課題は音楽等の文化イベントを含む多様化したプログラムの検証だと思います。8万人集客イベントの費用対効果を検討した、需要予測についての資料を示して下さい。

2. 建設費

2013年下半年より2014年にかけて建設コストが大幅に上昇しています。説明の中で、初期投資額1,625億円には2012年から2013年7月までの物価上昇を含んでいると説明されました。それから1年が過ぎた現時点での建設コストに則した事業予算をご提示下さい。

3. 維持管理費

示された維持管理費用の算出の詳細検証が必要です。維持管理費の詳細な算出根拠をお示し下さい。

4. 改修計画との比較検討

改修方式を断念した理由をお聞かせ下さい。また、複数の改修案が出されている現状を鑑みて、それぞれに対するにメリット、デメリットを検証し、複数の改修案に対してできる範囲でそれぞれの検証を行い結果を示して下さい。

5. スケジュール、解体工事について

改修案が出されている中で、解体工事を少しでも待つことはできませんか。2015年9月に予定されている着工までにまだ1年余りあります。解体工事をもう少し後にずらすことが可能ではないかと思われれます。解体工事と本体工事発注の関係がわかる工程表を示して下さい。

6. 今後の会議開催について(要望)

計画プログラム、建設費用、維持管理について問題点を整理して国民に丁寧に説明することが大事です。また、多様化しているプログラムについての見直しを含めて、専門家の見地からアイデアを持ち寄り、国立競技場が良きレガシーとなるように力を合わせて協力していきたいと考えます。

次回は公開方式での開催を望みますが、早期に第2回会議の設定をお願いいたします。

以上